

平成31年度 当初予算事業の概要説明書(兼評価説明書)

1. 事務事業の概要

事務事業名 (中事業)	児童館事業						
基本政策	01 ともに支え合い、笑顔輝くあたたかなまち						
政策	04 健やかな成長を支える子育て環境						
施策	02 安心とゆとりの持てる子育て支援の推進						
実施形態	直営						
事業期間	単年度	平成27年度～					
要求区分	継続	予算区分	政策				
事業の実施を市に義務づける国の法令							
有 無	なし						
法令名 条項							
予算科目	1 西脇市一般会計 - 030201 民生費・児童福祉費・児童福祉総務費 - 119200 こどもプラザ事業・児童館事業						
部名	都市経営部	課名	茜が丘複合施設(H30総合企画課)				
課長名	赤松 たまゑ	TEL	25-2800	内線	なし		

2. 対象・目的・内容

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心できる子どもの居場所の提供 ・子どもが健やかに成長し、イキイキと活動できる行事を実施 ・子どもの自主性、社会性、生活技術が育まれる事業の実施 ・地域や関係機関との連携を図りながら保護者を支援する
事業の対象 (誰・何を)	0歳～18歳までの児童とその保護者
事業の目的(ど ういう状態にす るために)	18歳未満の全ての子どもの遊びやその保護者の子育てを支援し、子どもたちの健全育成を図り、安心して子育てができる環境をつくる。
事業の内容(ど ういう内容を行 うのか)	子どもや親子の居場所となる環境の整備(発達を促す遊具や玩具の設置、工作や折り紙等の体験できる機会の提供等) 高校生等が活躍できる機会の提供(みらいえでのイベント、県立こどもの館開催のイベント等に参加、打楽器教室等で趣味や挑戦したいことが見つけられる環境設定)

3. 年度別事業費

(単位:千円)

	事業費							
	国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源	
平成28年度決算額	7,919	952	952			720	5,295	
平成29年度決算額	7,825	910	910			60	5,945	
平成30年度決算額	6,853	1,304	1,304			60	4,185	
平成31年度予算額	4,834	678	678			1	3,477	

4. 総コストの概算

(単位:千円)

平成30年度のこの事業に 従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成30年度 決算額 (B)	総コスト (A)+(B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.65	3.45	4.10	13,220	6,853	20,073
事業費の主な使途		臨時職員賃金、講師謝金、消耗品代			

5. 事業の実績・目標

(単位:千円)

活動 指標 ①	指標名	児童館開館日数			単位	日
	説明や数式	各年度の開館日数				
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
	目標値	347	347	347	347	
	実績値	347	347			
	経費(千円)	21,045	20,073			
単位当たりのコスト	60.65	57.85				
活動 指標 ②	指標名				単位	
	説明や数式					
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
	目標値					
	実績値					
	経費(千円)					
単位当たりのコスト	#DIV/0!	#DIV/0!				
成果 指標 ①	指標名	児童館利用者数			単位	人
	説明や数式	年度中の延利用者数				
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
	目標値	95,000	98,000	100,000	100,000	
	実績値	97,606	100,057			
	経費(千円)	21,045	20,073			
単位当たりのコスト	0.22	0.20				
成果 指標 ②	指標名	利用者満足度(遊具等環境設定)			単位	%
	説明や数式	アンケート実施により把握した数値				
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
	目標値	—	85.0	93.0	95.0	
	実績値	—	91.6			
	経費(千円)	—	—			
単位当たりのコスト	#VALUE!	#VALUE!				
実績・成果等の説明	児童館は、多くの利用者数である。また、アンケート結果を見ると、子育て中の親子にとって、安心して過ごすことができる場所であり、魅力ある遊びが提供できているのではないかと感じる。今後も引き続き、アンケートを実施し、改善を図りながら継続していきたい。					

6. 評価

1次評価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	5	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4	
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	4	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5	
	説明	継続実施						
	説明	子どもや保護者にとって、安心して過ごせる居場所としての役割を果たしている。児童館の利用だけでなく、様々なイベントや教室を実施することで、子どもの学びや地域とのつながり、友達や異年齢でのつながりが深まってきている。今後も継続実施していく事で、より密な関係を構築することができる。						
2次評価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	3	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4	
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5	
	説明	改善見直し						
	説明	児童館の利用だけでなく、様々なイベントや教室を実施することにより、幅広い年齢層の利用者となり満足度が高い点は評価できる。イベントや教室の内容については、利用者のニーズに合わせて見直しをされているが、こどもプラザ事業と児童館事業の違いが必ずしも明確ではなく、実施する事業に類似・重複があると思われるため、両事業の実施内容を総点検するとともに、実施内容の整理・統合を行うべきである。						